

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

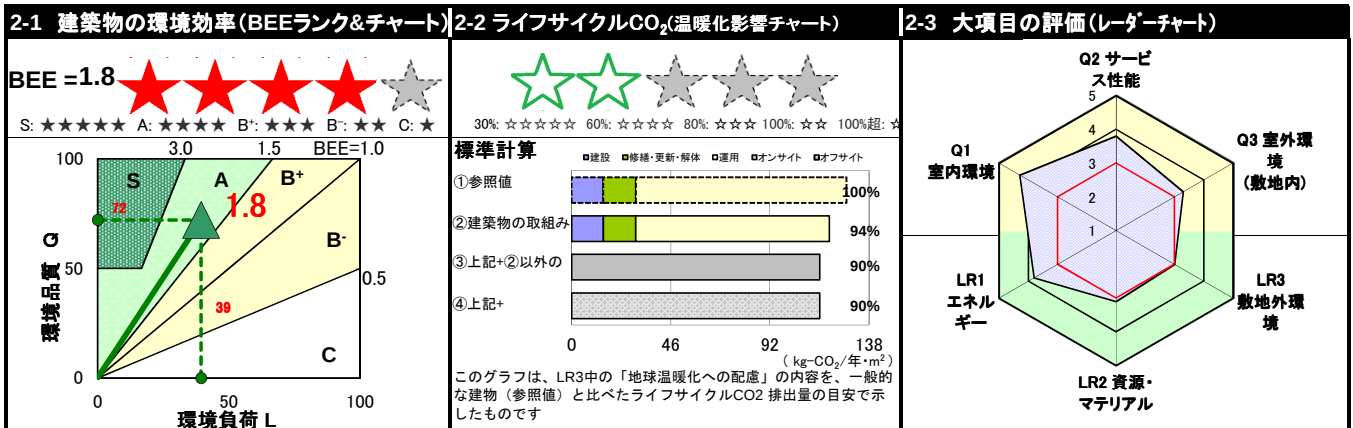
CASBEE札幌(暫定版)

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0

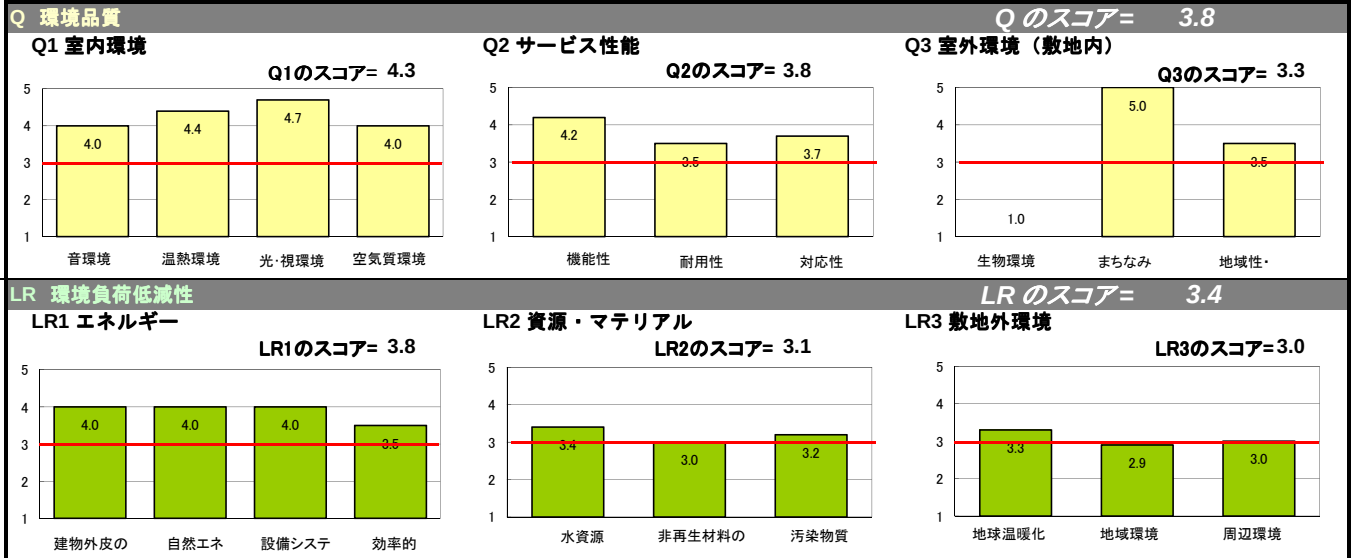
I使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京楽産業. グループ 札幌支店	階数	地上4F
建設地	札幌市中央区北2条東3丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	3人
気候区分	1地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年10月6日
敷地面積	819 m ²	作成者	株式会社日本設計 川崎拓二
建築面積	671 m ²	確認日	2014年10月6日
延床面積	2,589 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
安全性への配慮と環境への配慮は施主要求事項であるため、施設計画にあたっては耐震安全性、環境負荷削減計画、BCPに重点を置き「サステナブルデザイン」の基本理念の下に計画を行った。環境へ配慮し方位毎の外装計画や外断熱工法を採用し外部負荷の少ないパッシブな計画を目標としている。また自然換気や自然採光、昼光センサー連動照明などを積極的に用い自然エネルギーを活用する。		・周辺環境への配慮(日照/騒音/プライバシー配慮) ・時代の変化に対応できるスカルトインフィル計画(構造躯体と設備・内装の分離) ・耐久性の高い材料の選定
W (Global Warming) 省エネルギー・省資源 ・北面はダブルガラスを採用し冬の断熱性を高め夏にはスリガラスで日射熱を排出し室内の自然換気促す。東西壁は高断熱仕様とし断熱サッシやトリプルガラスを採用し熱損失を低減する。 ・全館LEDや省エネ設備など省エネルギー機器を積極的に利用する。 ・南面に太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを活用する。	G (Green) 緑化 ・北に全面空地を設け低木を配置し明るく潤いある景観とする。	S (Snow) 雪処理 ・落雪は敷地内で処理できる計画とする。また、エントランス車両出入口廻りにロードヒーティングを設置し、周辺交通へ配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される